



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-43-7773  
URL: <http://lets.some.jp>  
E-mail: [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

# うるわし通信

令和元年9月

## 美しい桜井を次の世代に引き継ぐ

建築設計事務所を大阪から桜井に移して、ちょうど3年が経ち、事務所2階の窓から見える三輪山はあっという間に草色に輝く新緑から深い緑に変わりました。桜井に引っ越した理由はいくつもありますが、その一つに歴史のある街並みが残る中で暮らしたいということがあります。ですが、引っ越してきた当初はお向かいに2軒あった古民家と近所の3軒の合計5軒がこの3年間に壊されて今風の新しいお家に建て替わり、田畑だった所にはたくさんの家が建ちました。

桜井は美しい山並み、飛鳥時代以前の古墳や遺跡、田畑と山並みと川と瓦葺の家々が作り出す景観、夜の暗さと静けさなど、大阪に近い立地でありながら都会が失ってしまったすべての良さを今も保持しています。そのような良さを是非潰さないで、次の世代に引き継いでいただきたいと思っています。日本全国で時代を経るごとにあちこちの素晴らしい景観が少しずつ無くなっていますので、これから時が経てば経つほど今ある歴史のある街並みや古代を感じる景観は価値を増していくと考えております。他の都市の真似をするのではなく、古代文化の息づく桜井は、今ある古代からの歴史を感じることができる桜井の良さをより磨き上げながら発展してほしいと思います。

このたび、文化財保護法が改正され、文化財保護行政も整ってきました。国土交通省、内閣府も古民家などの歴史的資産を活用した観光まちづくりの方針を打ち出しています。金融・公的支援のほか規制制度の改善を進め、2020年まで全国200地域での取り組みを目指しています。文化財保護法改正では、市町村が「文化財保存活用地域計画」を作成し、国が認定すれば文化財である古民家等の整備や改修、文化遺産の総合的な整備・活用に文化庁の支援を受けることができます。

飛鳥時代以前の文化遺産がたくさんあり、美しい景観を保っている三輪山周辺は、日本全国を見てもとても価値のある場所です。まだあまり情報発信されていませんが、広く全国に知られることになれば、移住したい人がたくさん現れるのではないかと考えています。桜井の良さを理解して本当に桜井を好きな人にたくさん移住してきてもらうのが、桜井の安定につながるのではないのでしょうか。そのためには、今ある良さ、価値を壊さないよう大切に、磨き上げることが大切だと思っています。

(石井 智子)



次世代に引き継いでいきたい、美しい山並み

# 桜井 記紀万葉プロジェクト推進協議会の取り組みについて

奈良県が古事記完成1300年(平成24年)を契機に立ち上げた「記紀・万葉プロジェクト」は2020年(令和2年)の日本書紀完成1300年に集大成を迎える。

桜井市も奈良県と連携して、平成24年5月17日に「桜井 記紀万葉プロジェクト推進協議会」を立ち上げた。記紀万葉のふるさと桜井を、県内はもとより全国各地に情報発信をするとともに、市内の各種団体団体が協働して各種イベント・事業を実施し桜井の地域振興に取り組んできた。

2020年に最終段階を迎えるにあたり、「うるわしの桜井をつくる会」が取り組んできた来た事業の一端を報告したい。(令和元年度現在)

## 1. 桜井記紀万葉歌碑原書展

桜井を愛した昭和の文人達が揮毫した万葉歌碑原書展を「あべのハルカス近鉄百貨店」(平成26年)をはじめ、「県立万葉文化館」(平成27年)、「桜井市立図書館」(平成28年)で開催し大きな反響を呼んだ。

## 2. 記紀万葉原書活用啓発事業

桜井市観光協会、うるわしの桜井をつくる会、TEAM忍坂、飛鳥学院、桜井未来まちづくりネットワークの5団体でプロジェクトを組み、桜井市内に建立されている記紀万葉歌碑の原書を活用する事業を企画し、市内外に情報発信することを目的に、市内に建立されている歌碑64基のうち40基の写真パネルを作成した。リニューアルされた「まほろばセンター」の内覧会(5月10日)に8点を1週間展示し、多くの参加者に万葉のふるさと桜井を認識していただいた。

## 3. 地域歴史学習会

当会が中心となって、平成27年度から市内の公立小学校6年生を対象に、地域に建立されている万葉歌碑や遺跡等貴重な文化遺産を自分たちの目で確認し、地域に誇りを持てる子供たちに育ててもらうことを願って、校外学習会に取り組んできた。実施に当たっては桜井市ボランティアガイドの会、教育委員会、校長先生、地元区長会等の協力を得た。併せて平成30年度から新しく作成した万葉歌碑写真パネルを、校内に展示して子供たちの理解を一層深めることに努めてきた。

## 4. 最終年度事業の取り組み

### ●奈良県への提案

奈良県では最終年度事業のアイデアを募集している。桜井市では各企画運営委員から企画書を提出してもらい、各事業案を集約して奈良県に提出する。

### ●桜井 記紀万葉プロジェクト推進協議会への提案

現在①東京での原書展開催、②大神神社新直会殿での万葉歌碑原書展、③記紀万葉原書活用事業(パネル24基の制作を含む)、④地域歴史学習会の提案が予定されている。

当会では万葉のふるさと桜井を全国に情報発信するとともに、ふるさと桜井に誇りを持てる子供たちの育成に今後も継続して取り組んでいきたいと考えている。

(高瀬 安男)



原書展(あべのハルカス)



地域歴史学習会(城島小)



パネル展示(まほろばセンター)

## 折口信夫著 『死者の書』を読んで

フィリピンのルバング島から戻った小野田少尉は、日本の変化を度々問われ、「国は変わっていないが、人が変わってしまった」と答えたそうだ。

ここに描かれるのは、それよりもずっと前の古代。考え方、誰かを思う感覚も捉え方も重さも、今とは全く異なる。人が、人種が変わってしまったかのように。

クライマックス、郎女と滋賀津彦との邂逅のシーンは読む度感涙してしまう。圧倒的な存在感。圧倒的な美しさ。時が満ち、求め合う二人が顔を合わせる事が出来る瞬間。郎女を守ろうと発せられる擬音、とても身体的で映像的な表現が、鳥肌が立つように身に沁み、心に入る。何故こんなに心を揺さぶられるのか。

白玉 一 骨一 故人を拾うても拾うても、掬んでも掬んでも掌から消え去ってしまうシーンがある。故人の存在を求め、思い続けて、ここにはいるはずもないのに、至る所に佛を、啓示を、或いはその人自身や断片を見てしまっていた十九の自分。わたしの中には、死を希う命がある。史実を余り考慮しなかった事もあるのか、すんなり郎女とシンクロしてしまった。郎女にとっての春分や秋分は、わたしにとっては命日だ。畏れと共に待ち焦がれる。

郎女の前に姿を現わす滋賀津彦は、夕日に重なる佛、天井の光から浮かび上がる髪、顔、肩、胸等これらは黄金と表現され、荘厳に尊者として現れる。皆寝静まった宵闇に、郎女をと帷帳を掴む指は、白く細い骨。凍るような冷気。畏いと表現される。

現世に存在してはならぬ死者である現実。そうではあるが、郎女を求める思い自体は美しいものなのか。だが、思わず郎女が口にした「なも 阿弥陀ほとけ」の言葉で滋賀津彦は消えてしまう。行ってはならぬであろう死者の世界への畏れ、しかしその死者を求める思い。美しい思い。ほほき ほほきいと鳴く鶯、女人成仏をも説く法華経ではなく、郎女が口にしたのは浄土教。即身成仏ではなく、共に西方浄土へと無意識に望んだか。

故人に会えたかもしれない日、そこへ着く直前、わたしは畏ろしくなってしまった。そこにその人は居らず、最後の日に共に撮ったのだと言う写真が、わたし宛に置かれてあった。畏ろしくなどならなければ、連れて行ってもらえたのだろうか。

「芸術が超自然・超経験を希うた如く、愛は個体的区分を解脱する欲求なのだ」と折口は書いている。

この本の感想とは、折口信夫の夢、たましいへ感想を書くようで、中々言葉にならなかった。

ただただ、美しいと思う。この本の舞台に居住している事を、不思議に思う。

中将姫の織り上げた曼荼羅を、今度當麻寺へ見に行こうと思う。

読書会会員 野澤 恵実子



## さくらい菜の花プロジェクト10周年

さくらい菜の花プロジェクトは、今年（2019年）創立10周年を迎えます。菜の花を通して環境・農業・観光・経済・エネルギー・教育等の問題を見直し、地域の田園や山が生み出す資源を地域で循環させることで、農業を再生し、里山を再生し、地域を再生し、新しい時代の持続可能な循環型社会の構築をめざす活動を続けて10年となりました。

それを記念して、オオニシ恭子氏（やまと薬膳）による講演会「食は生き方」を行います。欧州各地で32年にわたり、体を養う食の指導を行ってこられた氏から、食事のあり方がいかに命を養えるかを問い、考えるものです。皆様のご来場をお待ちいたしております。

日時：10月19日（土） 午前10時～12時 参加無料  
場所：木材振興センターあるぼ～る（桜井市粟殿355番地）

申込み：参加希望者は、氏名・住所・電話番号を記入の上、FAXかメールでお申し込みください。

FAX 0744-46-3400 Email hideko.nishida@gmail.com

\*ナタネ油の天ぷら試食・やまとコスメティック（ナタネ油配合の洗顔石鹸）のおみやげ有り  
主催：NP0法人さくらい菜の花プロジェクト 奈良県環境県民フォーラム自然環境分科会  
後援：奈良県・桜井市 問合せ：090-3652-8104（ひがし）・090-2380-0383（にしだ）



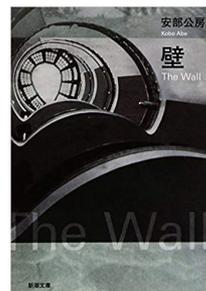
桜井市ふるさと納税返礼品  
「やまとのかおり」  
菜の花プロジェクトの商品です

## お知らせ

### ●図書館友の会

9月の読書会は、安部公房著『壁』です。  
三島由紀夫らとともに「第二次戦後派の作家」と呼ばれた。  
独特の寓意とユーモアで、孤独な人間の実存的体験を描き、  
その底に価値逆転の方向を探った野心作。

日時 9月24日（火）13：30から  
場所 エルト桜井 市民活動交流拠点  
問い合わせ先 浅川 肇 TEL：090-1961-6345  
友の会会員以外の参加も歓迎します。



### ●土舞台顕彰事業 顕彰大祭

日時 10月20日（日）午後12時30分より  
場所 桜井公園（桜井市谷）内の土舞台



【編集後記】猛暑・酷暑であった今年の夏、いかがお過ごしでしたか。全国で5万人の人々が熱中症で搬送されたとのこと。やっと朝夕の涼しさを感じられる季節になってきましたが、台風や記録的な豪雨・氾濫等で災害が多発し、心を痛める日々が続いています。

今回の『通信』は、投稿原稿を中心といたしました。原稿を寄せて頂きましたことに感謝とお礼を申し上げます。桜井のへさまざまな思いや地域性を積極的に情報発信していくことを「うるわしの桜井をつくる会」は今後とも進めていきます。残暑厳しい折、ご自愛ください。（編集子 楠木）

うるわし通信発行人  
高瀬 安男  
TEL：090-1678-9157